

ITA設定ファイル説明

No.	ITA	Ansible	Cobbler	OpenStack	DSC	AnsibleTower	設定ファイル名	説明
1			○				(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupandconfs/cobbler_driver/path_DATA_RELAY_STRAGE_side_Cobbler	Cobblerサーバにて、データリストレージのルートパスを定義。
2	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupandconfs/ita_base/data_portability_running_limit.txt	データポータビリティの、インポート処理の実行時間制限値。 設定値を過ぎても実行中の処理は失敗と判定する。 単位は秒。デフォルトは300を指定。
3	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupandconfs/ita_base/hide_menu_column_list.txt	代入値自動登録設定の項目表示から除外するカラムを記載する。 「e」始まりの行は無視される。
4	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupandconfs/ita_env	バックヤード機能のログレベルとITAのロードディレクトリ(ita-root)を記載する。
5	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupandconfs/path_PHP_MODULE.txt	PHPモジュールのパスを記載。 例:/bin/php
6	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/backupandconfs/sysmail_list	システムメール(ky_mail)を利用する場合の設定を記載する。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
7		○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/ansible_vault_accesskey.txt	ansible-vaultコマンドのパスワード パスワードの変更は、ITAインストール直後のみ動作保証しています。 運用中に変更したり、パスワードが一致して環境へのメニューエクスポート・メニューインポートは動作保証していません。 例:「ANSIBLE-VAULT-PASSWORD」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
8	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/app_mail_from.txt	WebDBCoreからシステムメール(ky_mail)を利用する場合に、送信元アドレスになる。 ※00_loadtable.phpにアクション装置でメール送信する場合。 ※ITAのメール送信機能(ky_mail)を利用しない場合は不要。
9	○	○			○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/app_msg_language.txt	ITAの使用言語を定義する。 日本語の場合は「ja_JP」を記載。
10	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_connection_string.txt	MySQLへの接続文字列。 例:「mysql dbname=ITA_DB host=localhost」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
11	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_model_string.txt	RDBの種別を定義。 0: OracleDB 1: MySQL/MariaDB
12	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_password.txt	MySQLの接続パスワード。 例:「ITA_PASSWORD」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
13	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/db_username.txt	MySQLの接続ユーザ。 例:「ITA_USER」を暗号した文字列。 暗号仕様については※1を参照
14	○	○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/path_ANSIBLE_MODULE.txt	ansibleコマンド(ansible-playbook/ansible-vault)がインストールされているパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/local/bin」を記載
15	○	○				○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/path_PHP_Spyc_Classes.txt	Spycのパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/share/php/spyc-master」を記載
16		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/accesskey.txt	AnsibleサーバのRestAPIに使用するアクセスキー。 例:「AccessKey」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
17		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/secret_accesskey.txt	AnsibleサーバのRestAPIに使用する秘密キー。 例:「SecretAccessKey」を暗号した文字列 暗号仕様については※1を参照
18		○					(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/restapiconfs/ansible_driver/ansible_playbook_watch_time.txt	AnsibleサーバのRestAPIでansible-playbookコマンドの稼働確認を行う間隔を記載。(単位:ミ リ秒) この間隔で、最大3回まで稼働確認を行う。 例:「10」
19	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/commonconfs/admin_mail_addr.txt	システム管理者の連絡先メールアドレスを記載。 ファイルが無い場合 ⇒「管理者へ連絡」といったリンクが無くなる
20	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/ExternalAuthSettings.ini	ActiveDirectoryの連携先情報を記載。
21	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/LTPProtocol.txt	ITA前段でHTTPS終端する場合など、クライアントサーバのプロトコルが分からない場合に 利用する。 ファイルが存在しておりプロトコル(HTTP/HTTPS)の記載がある場合 ⇒ファイルに記載されているプロトコル(HTTP or HTTPS)が採用される ファイルが無いまたはファイルが0バイトの場合 ⇒環境変数\$SERVERからHTTP/HTTPSを判定する
22	○						(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_HTML_AJAX.txt	HTML_AJAXのパスを記載。 例:/usr/share/pear/
23	○	○	○	○	○	○	(ITAインストールディレクトリ)/ita-root/conf/webconfs/path_PhpSpreadsheet.txt	Phpspreadsheetのパスを記載。 本サンプル⇒「/usr/share/php」を記載

※1 base64エンコード後、rot13で変換した値